

タイラー・ジュニア・カレッジ

TJCの皆さん ようこそ八千代市へ

タイラー・ジュニア・カレッジの皆さんが平成23年6月2日、東京成徳大学八千代キャンパスを訪れました。大震災の後にもかかわらず、親日家のノア・マイルズ教授が日本の状況を説明し、学生7名とともに訪日したものです。国際言語文化学科の鷹武マーガレット准教授が中心になり、双方の学生がプレゼンテーションを行うなど、質疑応答や意見交換などで交流会は大いに盛り上がりました。

▼豊田俊郎市長と周郷紀男会長を囲み、記念写真を撮るTJCの皆さん



特集

多文化交流センターって何？

外国人居住者への情報発信、相談対応、地域交流の場として八千代市では、平成22年10月1日に八千代市多文化交流センターを開館させました。今回は、「クリッピー」の編集責任者・瀬下和正さんが多文化交流センターを訪ね、開館したいきさつ、利用状況や今後の課題などを国際推進室長の堀谷修さんに伺いました。

開館したいきさつは？

瀬下 今日はお忙しいところありがとうございます。昨年の10月1日にこの八千代市多文化交流センターが村上団地の中に開館した訳ですが、開館したいきさつについてお伺いしたいと思います。

堀谷 この多文化交流センターですが、平成2年に出入国管理及び難民認定法の改正があり、日系3世までが日本で就労可能となりました。このことが背景となり、平成18年3月、総務省が「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、各自治体に対して多文化共生に関し計画的かつ総合的推進の呼びかけをしました。これを受け八千代市では、平成22年3月に八千代市多文化共生プラン策定懇談会委員の皆様の協力を得て、「八千代市多文化共生プラン」を策定しました。このプランの期間は平成22年から平成26年の5年間で、その内容としてコミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくり、国際感覚あふれる魅力あるまちづくりを柱にしております。また、平成20年度に市議会に対し、外国人相談窓口を作ってほしいという陳情があり、同時に市議会の一般質問の中でも同様の提案がありました。これを受け、市の方で検討した結果、外国人の密度が濃い村上団地の中に、空いている店舗がありましたので、これを修繕してオープン運びとなりました。



堀谷国際推進室長



瀬下編集責任者

使われ方はどのような？

瀬下 この施設はどのような使われ方をしているのですか？

堀谷 一番多いのが外国人からの相談です。通訳としてペルー人の国吉さんとブラジル人の梶原さんが交替で勤務し、2人ともポルトガル語、スペイン語、英語、日本語を話すことができます。このほか、通訳の方には、市役所の市民税課や健康づくり課などから翻訳の依頼が度々あります。また、今年2月まで交流室では、日本国際協力センターが実施した「日系人就業準備研修」などが行われていました。

瀬下 外国人相談では、どのような相談が一番多かったのでしょうか。

堀谷 1年間の相談件数一覧表がありますが、一番多かったのは、行政や学校、銀行などから届く書類等の「通訳・翻訳」で83件です。次が「暮らし」で52件です。次が「在留手続き」で38件です。後は「日本語学習」「教育」の順になっています。「息子が警察に捕まったのでどうしたらいいのでしょうか」という外国人のお母さんからの相談や、「犬の飼育と漏水の対応について」という村上団地管理サービス事務所から外国人の方に対する翻訳依頼など生活に密着した案件が何件かありました。

瀬下 外国人の方にとって生活をしていく上で、ここにいる相談員の方が手助けしてくれることが何より嬉しいと思いますし、多言語でやられていることに大変心強く思いました。

今後の使われ方は？

瀬下 今後の使われ方ですが、どのようなことをお考えかお聞かせください。

堀谷 まず、ここの交流室をどうやって使っていくかという問題があります。国際交流協会の方にも協力をいただいておりますが、例えば、同じような年齢の赤ちゃんを持つお母さんに集ってもらい交流をもらおう、あるいはどなたでも気軽に来てもらい、ここで日本語が勉強できるような施設になればいいと思いま

す。また、外国人の方々に学校の子どもたちを通してアンケート調査を実施し、それによって外国人の方がどのような要望があるかを把握したいと考えています。以前アンケート調査をした時は村上団地だけでしたが、今度は市全体で実施したいと思っています。また、施設がちょっと狭いので難しい面もあると思いますが、将来は千葉市の「国際交流プラザ」のような形で運営が出来ればいいのではないかと考えています。

行政と協会側が連絡を密にして

瀬下 私ども国際交流協会側としては、日本語指導の先生方が多数おられますし、海外経験を持つ人もおられますので、多文化共生の援助に生かすということをしていきたいと考えております。それと行政と国際交流協会が連絡を密にして、情報交換をしていけたら良い推進のアイデアが生まれるのではと考えております。

堀谷 外国人の方の支援にはいろいろありますけど、この方が何を望んでいるのか、それを探りながら、例えば相談窓口もそうなんですけど、どういう相談が一番多いのか、何を望んでいるのかを聞き出して、こういう問題がありますけどどうでしょうか、と協会側に相談をして出来るものからやっていく、というような形になろうかと思えます。

瀬下 本日はいろいろとお聞かせいただき、ありがとうございました。とにかく、外国の方が日本で生活をしていくには、大変な努力と周りの日本人の温かい援助が必要です。八千代市もこの多文化交流センターを設けた訳ですので、このセンターを中心に「互いの文化を認め合い、誰もが住みやすい街づくり」をモットーに、多文化共生プランを推進していただきたいと思えます。
(三橋伸一郎)

活躍する通訳。左が国吉さん、右が梶原さん



◀第6回インターナショナルデーでは4言語で多文化交流センターのPRをしました



▲相談に来た市民の方

● 1年間の相談件数

区分	項目	前期	後期	合計
内容別	住まい・引っ越し	9	2	11
	暮らし	37	15	52
	在留手続き	23	15	38
	結婚・離婚	1	0	1
	税金	12	6	18
	医療・健康	7	3	10
	福祉・DV	2	0	2
	労働	15	4	19
	出産・育児	4	2	6
	教育	18	3	21
	日本語学習	19	9	28
	交通・事故	10	1	11
	観光・イベント	2	1	3
	通訳・翻訳	47	36	83
	その他	22	41	63
計		228	138	366
言語別	スペイン語	132	60	192
	ポルトガル語	64	39	103
	英語	5	3	8
	中国語	2	0	2
	日本語	3	15	18
在住地別	市内	198	113	311
	市外	8	4	12
手段別	窓口	181	111	292
	電話	25	6	31
計		206	117	323

※前期＝平成22年10月1日～平成23年3月31日

後期＝平成23年4月1日～平成23年9月30日

※相談者数は前期が231人、後期が147人

※交流室利用者数は前期が475人、後期が23人

※見学・その他利用者数は前期が185人、後期が126人

第5回サバイバル日本語講座in八千代

期待以上の学習成果。多い来年度の講座要望

8月23日（火）から25日（木）の3日間、村上公民館で最多となる30名の生徒（ナイジェリアから休暇で来た3名も参加）が参加して開催されました。「アミーゴ」教室の生徒に加えて、八千代台地区日本語教室及び村上地区小学校3校の日本語担当教師による保護者への案内、生徒を小学校に集合して会場まで引率するなど、学校との連携も深まった成果でした。

学習は3グループに分かれて「日本語で友だち作り」

▼絵日記の読み聞かせも学習しました



「漢字に親しむ」「スピーチで自己表現」を各目標にして、ゲームも入れた楽しい日本語学習となりました。初日の参加者相互が知り合う学習に続き、2日目に八千代市少年自然の家に行き、一日を過ごしました。消防署による地震対策の話、消火器を使った消火訓練にと身近な事例による防災学習をしました。自然と親しむビンゴゲーム、プラネタリウムでの八千代で見える星座の学習は、生徒の興味を呼びました。体育室を使って毎回支援している八千代リーダーズクラブの中学・高校生による指導で、大学生とボランティアも入り混じりダンスやゲームの運動で汗を流しました。池で見つけたかわいいカエルを大切に家に持ち帰り、絵日記に書いた生徒もいました。3日目には、海外の童話の読み聞かせの後、夏休みの出来事や講座についての思い出を日記にまとめました。ボランティアとの対話をしながらの絵日記作りとなり、心なごむ記録となりました。スピーチ原稿では、東日本大震災や原子力発電所の課題、将来の夢などについて各人が明快な意見を述べました。各グループで発表したものを作品集としてまとめ、CDにした写真集と共に保護者にも配布して生徒の様子を伝えました。

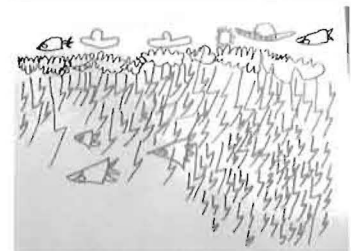
●受講生が書いた絵日記

なつやすみのことでした。パパとえいちゃんとママとももちゃんとうみにいきました。かえりにうみで、ひかげをつくる。かさとペットボトルとくつとタオルがながされました。クーラーボックスはおもかったので、ながされませんでした。ママのくつはえいちゃんがとってきてくれました。ほかのはみんなでひろいました。あらってもってかえりました。うみがすなのところまできていたのがふしぎでした。
(ももかちゃん・幼稚園児5歳・ペルー)

きのうのことでした。カミナリがなりました。1かいだけいなくまをみました。ひかっています。こわくてびっくりしました。さいしょの1かいめのおとはちいさかったのに、だんだんおおきくなりました。こわかったけどがまんしました。
(じゅんちゃん・小学1年生6歳・ブラジル)

ちょっとまえのことでした。東小学校からかまきりをつかまえました。つかまえてうれしかったです。たべものはばったとくもです。でもつかまえたかまきりはかわいそうだからにがしてやりました。そして食べさせてやりました。ギザギザのでむしゃむしゃ食べおわたらてをきれいにしました。すごいなおもいました。
(高橋憲二くん・小学2年生7歳・フィリピン)

《原文のまま掲載。順不同》



当初難しい学習となるかと危ぐしましたが、各ボランティアのお蔭で期待以上の学習成果をあげ、生徒たちから来年も是非やってほしいとの要望をもらえた講座となりました。各日本語教室のボランティアに加えて、村上地区小学校の先生、2年目の東京成徳大学生、八千代リーダーズクラブ、警察、県関係者など3日間で70名に及ぶボランティア参加を得て、各生徒を個別に担当する学習支援をしてもらえました。生徒たちにとって多くの友だち作りと日本語学習、更に自己表現する力を身に付けるなど、多くの成果を得ることができました。(鈴木正俊)

▼少年自然の家ではプラネタリウムを見たり、消火訓練や地震対策の学習など有意義な時間を過ごしました。



日本語スピーチ大会、今年度も1月28日(土)に開催!

日本語指導ボランティア部会では、八千代市内各地域の日本語教室でボランティアによる日本語指導活動を展開しており、現在9教室で日本語学習を必要とする外国人、児童等に対し支援を行っております。

その支援活動の一環として、スピーチを通じたレベルアップを図るため「日本語スピーチ大会」を開催しており、前年度は今年2月初めに行われ、日ごろの勉強の成果を披露しました。大会は毎回アットホームな雰囲気の中で行われ、大会後のささやかな茶話会を通じ、異なる教室の生徒・家族間の理解が一層深まっております。今年度は平成24年1月28日(土)午前10時から八千代台東南公共センターで第5回目の大会を開催する予定です。スピーチをする方、応援の方、観覧ご希望の方はぜひ、ご参加ください。(江川典一)

●新しい情報はホームページでどうぞ。
アドレスは次のとおりです。
<http://www.yia-kokusai2006.com>

八千代へようこそ

市内では6人の外国語指導助手(ALT)が中学校で英語を教えています。9月から着任した4人の方をご紹介します。

日本の音楽が好き

この春に大学を卒業。専攻は歴史で、特にアジア史について学んできました。日本に興味を持ったのは、日本の音楽が切っ掛け。歌詞を覚えながら独学で日本語の勉強をしました。カラオケが大好きで「好きなアーティストは、バンブ・オブ・チキン。市スピッツも良く聴きます」とにっこり。八千代の子どもたちにも、ほかの国に興味を持ってもらえるように頑張ります。



●ヘイリー・ワリスさん/米国タイラー市

子どもたちと一緒に学びたい

いろいろな国の文化に興味があり、大学のプログラムで中国とトルコに行きました。今回ALTに応募したのは、大学の教授の勧めが切っ掛けです。両親が横須賀に住んでいたり、親しみを持っています。趣味は読書と旅行。フルーツが好きで初めて食べた八千代の梨は「おいしい」と慣れない日本語で。子どもたちに英語を教えながら自分自身も勉強していきます。



●ジェシカ・ブライアントさん/米国タイラー市

伝統や文化を肌で感じたい

カリフォルニアで日系4世として生まれました。日本の文化のことを知りたいと思い、日本語を勉強しました。ディズニーランドが大好きで、地元カリフォルニアではダンサーとして働いた経験も。浦安のディズニーランドに何回も行ったことがあります。日本で伝統や文化に触れながら子どもたちと一緒に楽しみたいです。



●リネイ・タカタさん/米国カリフォルニア州

英語に興味を持てるように

バンクーバー生まれのカルガリー育ち。趣味は旅行。お寺や神社など伝統のある建造物に興味があります。これまで見てきた世界のことを子どもたちに伝え、みんなにいろいろと旅をして欲しいと考えています。カナダの文化を紹介したり、ゲームを取り入れながら、英語への興味を引き出せるような授業にしたいと思っています。



●ジェニー・タムさん/カナダ・カルガリー市

第6回インターナショナルデー

多文化共生の推進を目的に開催

2011年9月11日(日)午後1時より村上にあるフルルガーデン噴水広場で、八千代市国際交流協会主催による第6回インターナショナルデー「八千代で世界と出会おう」が開催されました。市内には約4千人の外国人が住み、多文化を認め合う多文化共生の時代に入ったと言えます。

今年3月に発生した東日本大震災の影響で、市内では計画停電等の問題が発生したため、開催が心配された時期がありましたが、無事に開催することができました。このイベントは、市内に在住する外国人登録者に楽しく、有意義に交流する場を提供し、外国人を含めた地域のネットワークづくりの一助となることを目的に実施しています。

国際交流協会が発足して6年が経過し、インターナショナルデーは毎年秋に開催され、今年で6回目になります。舞台周りの展示ブースでは、村上に昨年10月に開設された多文化交流センターの紹介、市内に在住する外国人登録者の母国の紹介、姉妹都市タイラー市との交流写真、東京成徳大学の紹介が行われました。

また、ブラジルコーヒーやスイーツが試食用として提供されました。

開会のあいさつでは、豊田市長より震災の発生に際し、姉妹都市・米国タイラー市、友好都市・タイ王国バンコク都よりお見舞いの手紙を受け取ったことに



▲今年もシキーニョさんが歌と演奏を披露



▲習志野スウィング・ソサエティの皆さん

▼東京成徳大学・国際言語文化学科の皆さん



▼サンバチーム・エストランジェイロスの皆さん



対して謝辞が述べられ、ふだんから国際交流の必要性が大切とお話がありました。

舞台上で最初の出演者は、昨年に引き続きビッグバンド・ジャズ演奏の習志野スウィング・ソサエティ。フルバンド体制で迫力のあるジャズサウンドが聴けました。習志野市を中心に活躍しているバンドですが、楽員に市内在住者がおり、多くの友人が聴きにきていました。次は東京成徳大学・国際言語文化学科、李允希(イユニ)教授、水谷清佳講師と学生による韓国伝統衣装の着付けが披露されました。ドラマでしか見られない様々な衣装を舞台上で実際に着付けをしました。李教授より衣裳や習慣に関する説明があり、韓国文化を知る良い機会になりました。最後は浅草のサンバ・カーニバルに出演している浦安のサンバチーム、エストランジェイロスによるサンバダンスとブラジル人歌手シキーニョさんによる歌が大いに舞台を盛り上げました。サンバダンスでは、大勢の子どもたちや踊りの得意な大人が飛び入りしての大熱演は観客を魅了し、最高潮に達して無事終了しました。(瀬下和正)

恒例の語学研修旅行と 語学研修会を開催

南関東では紅葉にはやや早い平成23年10月28日、29日の2日間にわたり、恒例となった語学ボランティア部会の語学研修旅行を実施しました。

さて、今回は鎌倉、湯河原、横浜・三溪園・中華街を訪問しました。参加者は英語指導助手（ALT）からジェイミー、ヘイリー、ジェシカ先生及び英和高校のレイ先生の4名と部会メンバーの11名計15名でした。

旅の出発時から当部会の小島さんによる英語の観光案内をしていただき大変助かりました。そして、語学研修ですが、車中での外国人の先生との英会話、また途中の観光地での英語の説明、更に宿泊先で日本人も含め英語による全員の5分間スピーチを行い、リスニングと表現力の有意義な訓練となりました。

翌日の三溪園では、英語によるガイドさんの説明で古い日本建築と茶道の説明、また、美しい日本庭園を案内してもらい、外国人の先生方も日本文化の良い勉強になったことと思います。

三溪園の後は中華街に移動し、おいしい中華料理のランチを堪能しました。昼食後、中華街の散策をし、日本の中の中国文化も楽しめたと思います。

短い2日間でしたが、語学ボランティアの皆様とALTの先生方とも国際交流を深め、また語学の向上になったと思いつつ、この旅行の報告といたします。

また、当部会が主催する英語の語学研修会が平成23年11月12日（土）に八千代市福祉センターで行われました。講師は、八千代市在住でカナダ出身のタキ・マフムディさん。研修会の参加者24名を加え、総勢25名の英語研修会になりました。タキ・マフムディさんは

中央アジア生まれで、市内の日本語教室の生徒さん。研修会ではアラビア語、カナダの国民性の話など多文化の話題で盛り上がりました。講義のあとは参加者が英語で自己紹介。英語学習の有意義な一日でした。

参加者から次のような感想が寄せられました。「大変勉強になりました。これを機会にリスニングとスピーキングの習得に努めます」「素晴らしい研修会でした。これからも積極的にこの研修会に参加します」。皆さまのご要望により、来年も継続して開催する予定です。
(喜田茂・河合晴子)



▲イケメン？ の鎌倉大仏様の前で記念撮影

▼25名が参加した語学研修会



23年度予算の概要は 次のとおり

八千代市国際交流協会の平成23年度予算が平成23年5月22日に行われた総会で決まりました。その概要は次のとおりです。

■収入 単位：円

科 目	金 額
1. 会費収入	674,000
2. 補助金	1,600,000
3. 繰越金	135,644
4. 雑収入	356
合 計	2,410,000

■支出

単位：円

科 目	金 額	摘 要			
1. 事業費 1,090,000	1. インターナショナルデー 300,000	謝金	150,000	出演者・協力者謝金	
		需要費	120,000	ポスター制作・事務用品など	
		役務費	30,000	イベント告知など	
	3. 広報事業費 180,000	需要費	130,000	広報紙「cliP」印刷	
		委託料	50,000	HP制作委託料	
	4. 部会事業費 610,000	部会事業費	610,000	国際姉妹都市部会、日本語指導ボランティア部会、語学ボランティア部会、国際交流推進部会	
		1. 事務費 1,190,000	需要費	100,000	事務用品・会議用茶菓代
			役務費	200,000	会議通知・資料送付・電話代等
			備品購入費	50,000	
			人件費	770,000	事務職員給与・労災
研修費			30,000	研修参加費補助	
負担金			10,000	千葉県国際交流センター団体費	
交際費	30,000				
3. 予備費 130,000	1. 予備費 130,000	予備費	130,000		
		合 計	2,410,000		

平成24年度タイラー市 訪問者を募集します

姉妹都市タイラー市。早いもので平成4年5月に姉妹都市提携をしてから20年がたとうとしています。前回平成22年7月、タイラー市の皆さんが八千代市を訪問した際、「姉妹都市提携20周年記念をタイラー市で行いましょう」との提案がタイラー市長からありました。

▼前回の訪問団（平成20年10月15日から23日まで）



八千代市としては、平成24年10月ごろ訪問したい旨は伝えてありますが、まだ詳しい日程は未定です。決まりましたらホームページや「広報やちよ」でお知らせいたします。ぜひ、皆さん応募されてみてはいかがでしょうか。お待ちしております。（桑原将彦）



平成23年度篤行者表彰 副会長の 齋藤貴美子氏が受賞

齋藤さんは、平成4年4月米国への短期留学の経験を生かし、八千代市語学ボランティアの会に登録して活動を開始。平成5年、日本語ボランティア養成講座を受講後、3年間日本語教室「村上火曜会」の代表として日本語学習を支援してきました。平成8年に日本語教室「東南火曜会」の代表となり、通算18年間学習指導を通して草の根の国際交流を続けています。平成18年八千代市国際交流協会設立時に同協会副会長に就任し、現在も活躍中です。

編集後記

2011年3月11日午後2時46分、宮城県沖でマグニチュード9.0という途方もない巨大な地震が発生。幸い私たちの住む八千代市では、東北地方のような被害はありませんでしたが、震度5強という大きさに改めて地震の恐ろしさを感じた方も多かったことと思います。タイラー市長のパーバラ・バスさんから来たお見舞いの手紙では「タイラー市とタイラー市議会を代表して、日本の

海外旅行の トラブル回避って？

外務省でまとめている「海外邦人援護統計」によると、日本人が巻き込まれたトラブルの中で群を抜いて多いのが、窃盗、強盗、詐欺などのいわゆる財産犯による被害です。事件・事故の総件数の4割近くを占めています。海外では、常に危険と隣り合わせという自覚を持って慎重に行動を。

◇ケース①『路上で』

ソフトクリームを食べながら歩いてきた人がぶつかってきて、服にクリームがついた。その人は親切を装ってふき取ってくれたが、後で気がつくとポケットから財布がすられていた。服につけられるのは、他にもペンキ、ケチャップ、マスタードなどいろいろあります。

※犯罪者は「犯行の標的」のスキをうかがっています。自分のことをじっと見ている人はいないか周囲に気をつけましょう。見知らぬ人から不審な行為をされた場合には、毅然とした態度で対応することが必要です。

◇ケース②『乗物の中で』

バスの車内で集団に取り囲まれて、バスが揺れるたびに体に触れたり、乗客が乗り降りするたびに押されたりして、後で気がついたら財布をすられていた。

◇ケース③『ショッピング中に』

エスカレーターの降り口で、前に立っている人がつまずいて立ち止まったので自分も立ち止まり、すぐ後ろに立っていた人とぶつかった。後で気がつくと財布がすられていた。

※バッグや上着、ズボンのポケットなど、盗まれやすい所には、貴重品を保管しないようにしましょう。また、乗物やデパートなど人混みの中で、体が不自然に押されたり触られたりしたときは、すぐに所持品を確認しましょう。

大災害に対し日本国民と八千代市にお住まいの皆様からお見舞いを申し上げます。タイラー市当局はタイラー市民に対して八千代市の名のもとに全ての援助を赤十字社に直接提供するように求めました。八千代市の姉妹都市としてこの災害時に際し、私たちの心と祈りは常に八千代市と共にあることをどうぞ心に留めておいていただきたいと思います」という趣旨のことが書かれていました。来年は提携20周年記念でタイラー市へ行きます。感謝の気持ちは、忘れずに行きたいものです。（三橋伸一郎）

会員募集中

八千代市国際交流協会では会員を募集中です。詳しくは事務局(047-752-0593)へお問い合わせください。年会費は個人2,000円、家族3,000円、学生1,000円、団体会員10,000円となっています。